

明日へ、育てたいものがあります。

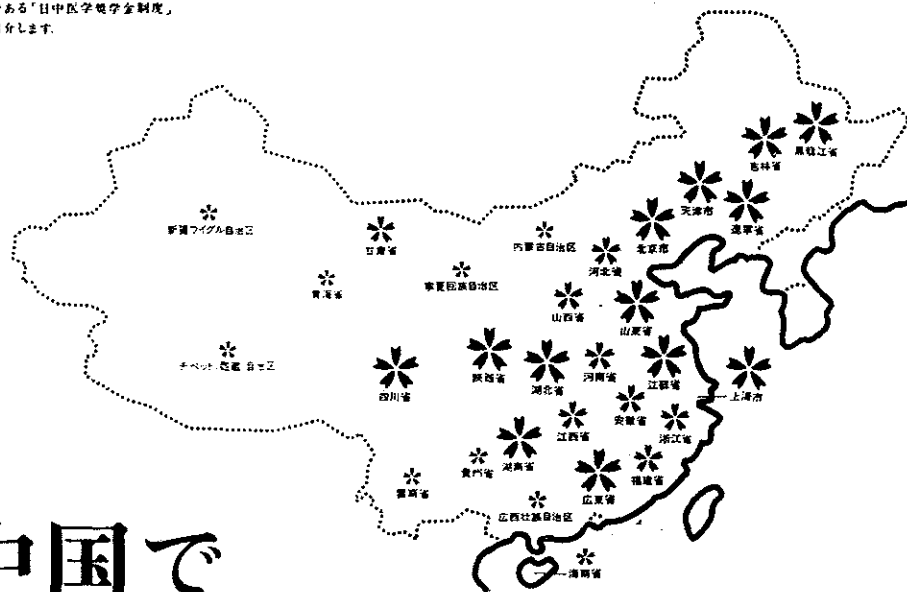
日本財団
The Nippon Foundation

(財) 日本財団振興会の通称です

ホームページを開設しました
<http://www.nippon-foundation.or.jp>

国家のお金ではありません。私たちの活動資金は、モーターボート競走の売り上げの3.3%によって、まかなわれています。今日は、その活動の一つである「日中医学奨学金制度」をご紹介します。

中国で 花咲くよ、 日本の医学。



約1000人が卒業した、日中医学奨学金制度。 2つの国の架け橋は、さらに10年つづきます。



理想的な研究環境が整っているのに
驚かされました。

神経科学研究の権威・金澤一郎教授の論文に触れて、ぜひ日本の先生のもとで学んでみたいと、6か月にわたる日本語の勉強を経て応募しました。研究環境について言えば、中国は実験設備・技術などまだまだ充分とは言えません。帰国後は、中国に多いパーキンソン病の研究に取り組みます。

氏 張宇さん(東京大学医学部で神経科学を学ぶ)

中国の「看護」の質向上のためにも、
日中医学交流の推進役になりたい。

2度目の今回は、特別研究者として来日しました。研究のほか生活面もきめ細かな支援をしてくれるこの奨学金制度には本当に感謝しています。現在、日中間の看護ケアサービスの比較をテーマに研究していますが、日本の看護は心のケアを重視しており、そうした姿勢をぜひ中国にも橋づかしてきたいです。

氏 高井さん(聖賢医科大学医学部で看護について学ぶ)



隣国の人や文化を知り、
世界水準の医学を学びたかった。

京大大学院の医学研究科は肝臓移植などでも世界をリードしており、日々進歩を遂げている医学を毎日目のあたりにしているという感じですね。先生はじめ仲間にも本当に感謝しています。思いやりの大切さも学べたのは、患者の立場に立った医療を考えていく上でも大きな収穫です。

氏 朝六さん(京都大学大学院医学研究科で肝臓外科を学ぶ)



中国文化の恩恵を受けてきた日本。そのお返しに中国から新緑生を招き、日本の高度医学を学んでもらう目的で始まったのが、日本財団が資金援助し日中医学協会が組織し役を担う日中医学奨学金制度です。発足以来、およそ1,000人が来日。帰国後は、医療の第一線や離村地区で活躍しています。さらに大きな成果を上げるため、この制度は今後10年の継続が求められています。

お問い合わせは、(財)日中医学協会 03-3291-9161まで。